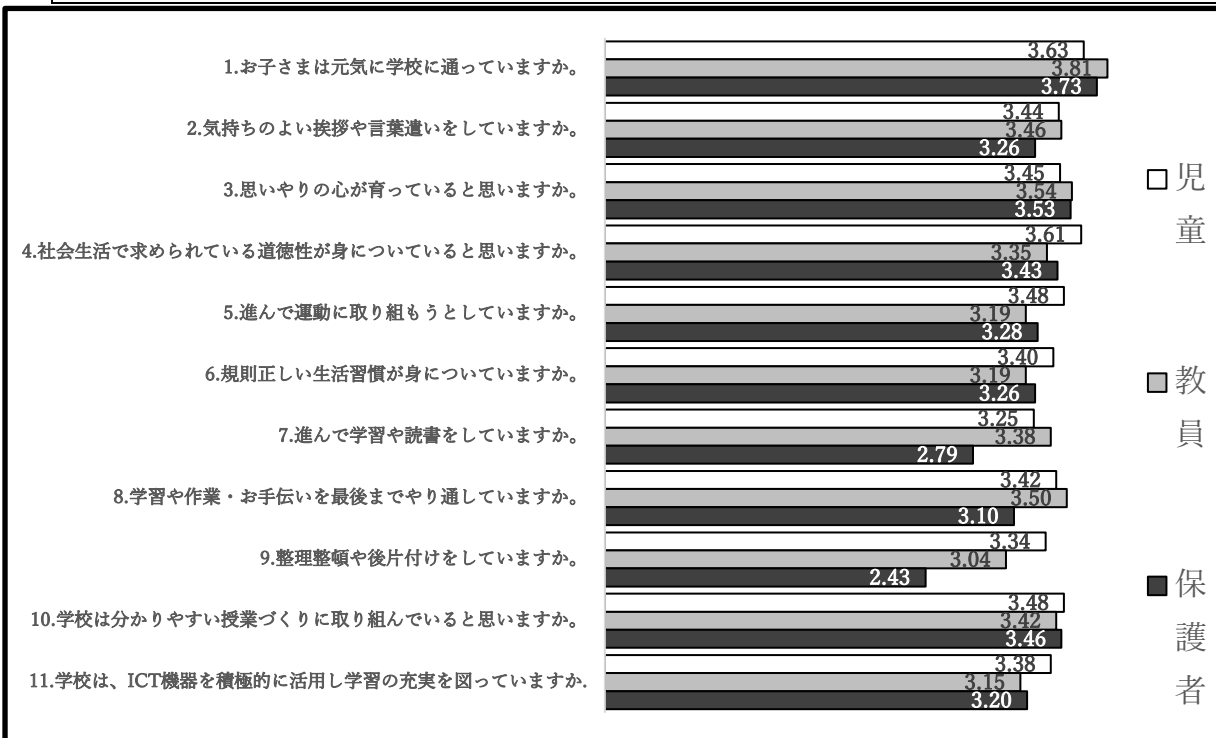


令和5年度 学校評価アンケートの結果について

日頃より、本校の教育活動にご支援とご協力をいただき深く感謝申し上げます。

さて、11月に行いました学校評価アンケートの結果をお知らせいたします。児童・保護者・教員3者で同様の質問をしたうえ、ここ3年間の推移を見ながら、比較考察しております。学校ではこの結果を真摯に受け止め、今後の教育活動の改善に役立てていきたいと考えております。ご協力ありがとうございました。

回答 4→そう思う 3 →少しそう思う 2→あまりそう思わない 1→ほとんどそう思わない



保護者のみのアンケート項目
12 学校や学年、学級の様子がお便り等により家庭に伝わっていますか。
13 学校は、台風や地震等の緊急時、適切に対応していますか。
3.45
3.30

「1. 元気に登校している」については、保護者・教員・児童ともに高い評価であり、保護者3年間の推移を見ても、全ての項目の中で最も高い評価となっています。しかし、児童自身の自己評価が保護者、教員に比べ、低いことから、大人には見えていない悩みを抱えていることがうかがえます。日々の様子に注視しながら、学校に来るのが楽しいと思えるような学級づくりを進められるように努めていきます。

「2. 挨拶や言葉遣い」の保護者評価に伸びがみられます。3年間の中で最も高い数値となりました。挨拶については、本年度の重点実践目標の一つでもあるので、今後も引き続き指導を継続し、校内だけでなく、地域の方にも気持ちのよい挨拶ができる児童を育てていきたいと思えます。

「7. 進んで学習や読書」に関しては、保護者評価が非常に低い結果となりました。3年間の推移を見ても年々下降傾向にあります。児童・教員の評価は、それほど低くはないことから、家庭での学習への取組に課題があることが伺えます。家庭での主体的な学習を推進するために、課題の内容を工夫したり、家庭学習の取り組み方を例示したりするなど改善に努めていきます。

「9. 整理・整頓、後片付け」については、保護者評価の中で最も低い数値となりました。3年間の推移を見ても毎年、評価が低くだけでなく、さらに下降傾向でもあります。3者評価で比較すると、教員も全ての項目の中で最も低い数値となっています。しかし、児童自身の評価は、そこまで低くはありません。どのような実態であるのかを分析し、できて当たり前ではなく、行き届いていない所や日頃の生活習慣等、見直すべき点はしっかり改めていけるよう指導してまいります。

「10. 分かりやすい授業づくり」については、3者評価全てに高い評価が出ており、昨年度の保護者評価と比較しても伸びが見られます。引き続き個に応じた指導の工夫や学ぶことの楽しさを感じられるような授業改善に努めていきます。